

# 優雅に泳ぐ巨大エイは人懐こい人気者

## 翼のような胸びれで泳ぐ

海の中を優雅に舞うひし形の巨体「マンタ」。身体の横幅の平均は3～5mとあまりに大きいので、他の生物たちは襲う気にならないらしく、マンタには天敵がほとんどいません。正式な和名は「ナンヨウマンタ」と「オニトマキエイ」の2種類で、「マンタ」と呼ばれているのは英名の「マンタ・レイ」に由来しています。

れっきとした魚ですが、背びれや尾びれがありません。その代わりに発達しているのが胸びれで、泳ぐときに翼のごとくはばたかせている部分がそれです。

身体全体が胸びれのように見えるほどです。

ナンヨウマンタは、沿岸を回遊する小さめの種です。一方のオニトマキエイは外洋に生息し、大きいと6m以上にもなります。

頭部には特殊なひれの一種である「頭鰭（とうき）」があります。

ヘラ状の突起で、泳ぐときにドリル状にねじります。

彼らは大きな口を開け、泳ぎながら大量のプランクトンを食べています。彼らには、たいていコバンザメやブリモドキがついてまわっています。これらの魚は彼らのおこぼれを食べるだけでなく、彼らの身体について寄生虫も食べているので、お互いに持ちつ持たれつの関係なのです。

## お母さんのお腹の中で成長する

彼らの繁殖期は12月初めから4月の終わり。

普段はゆったりと泳いでいますが、この時期の雄は、相当な速さで泳いで雌に対して求愛行動をします。

見事、カップリングしたら、卵は雌のお腹の中で受精され孵化します。子どもは雌の体内で成長し、約1年後に産まれ出ます。少しヒトに似ていますね。

ただ彼らの場合は、産まれたばかりでもすでに大人と同じ姿かたちをしていて、横幅が

1.1～1.4m程度とかなり大きく育っています。

そして、胸びれを動かしてすぐに自力で泳ぎまわり、エサを食べ、たくましく成長します。

性格はのんびりやさんで、好奇心が旺盛。

ヒトになつきやすいので、ダイバーからも大人気の魚です。

日本で彼らに会える確率が一番高いのは沖縄です。

一度野生の彼らに出会ってみたいものですね。

## ナンヨウマンタ トビエイ目トビエイ科 *Manta alfredi*

世界中の熱帯・亜熱帯海域で生息。全体重に対しての脳の容量が大きいこともあり、知能がとて高い。長い間「オニトマキエイ」の1種類と考えられてきたが、2009年に2種類に分けられることが分かり「ナンヨウマンタ」と和名がついた。

